

※ 自己評価は4段階評価とする。【A・・・よい B・・・概ねよい C・・・努力が必要 D・・・課題が多い】

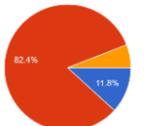
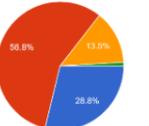
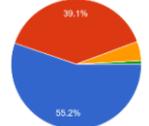
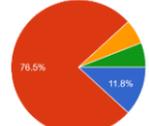
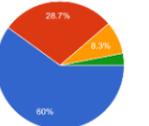
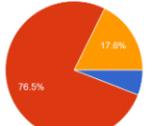
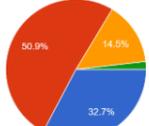
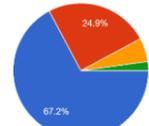
※ 下記の割合で示す数値は、肯定的回答(4 そう思う、 3 だいたいそう思う)の合計を表している。

I めざす姿

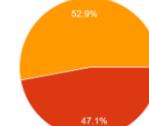
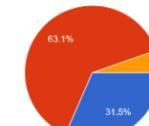
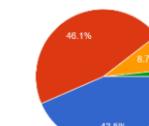
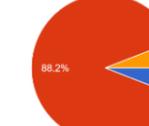
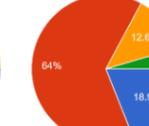
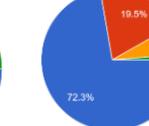
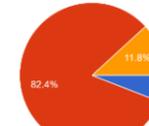
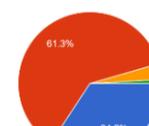
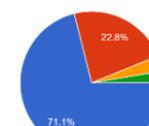
| 評価項目   | 評価指標・結果                |       |       | 具体的方策<br>手立て | 自己評価  |  | 考察・対策 | 学校関係者評価 |  |
|--------|------------------------|-------|-------|--------------|---|--|-------|---------|--|
|        | グラフ                    | 教職員評価 | 保護者評価 |              | 児童評価  | 指標別  |       | 総合      | 評価結果   |
| めざす学校像 | 1 夢や希望を育む元気な学校         |       |       |              | 【肯定的回答の割合】<br>(4、3の割合の合計)<br>教職員：88.3%<br>保護者：91.1%<br>児童：99.2% | ・体験的な活動の実施、地域・社会との連携<br>・校内掲示の充実                 | A     | A       | <p>○「夢や希望をどのように伝え、感じさせているか」について具体的な教育活動が見えにくいという声もある。キャリア教育等、様々な体験活動のもつ意義について積極的な情報発信に努めたい。</p> <p>○児童会によるあいさつ運動、校内パトロールの活動など、児童主体の活動を取り入れたり、集会で委員会からの啓発や集団行動の育成を図ったりすることで、規範意識の共有化を図ることができたが、教職員の評価としては低く、まだ十分でない面がある。</p> <p>○どの学年も、地域の関係機関やボランティアの方々に協力をいただき、体験的な活動の充実を図ることができた。</p> <p>○校舎周りの整備に関しては、年3回の奉仕作業で保護者の協力により、美化作業ができた。運動会の際には、重機での除草作業を行い、児童が支障なく練習できた。</p> |
|        | 2 静と動のある規律正しい学校        |       |       |              | 教職員：29.4%<br>保護者：90.2%<br>児童：82.6%                              | ・あいさつ運動や集会での態度の育成、清掃活動の推進<br>・児童の意欲や自主性を重視した場の設定 |       |         |  |
|        | 3 豊かな情操をはぐくむ整備された美しい学校 |       |       |              | 教職員：76.5%<br>保護者：93.6%<br>児童：96.6%                              | ・学級園・学校園等の花壇の整備<br>・校舎周りの美化作業                    |       |         |  |
| めざす児童像 | 4 進んで学び、よく考える子         |       |       |              | 教職員：76.5%<br>保護者：84.6%<br>児童：92.2%                              | ・ICTを活用した協働的な学びの推進<br>・「ひなたの学び」を意識した授業改善         | B     | B       | <p>○「ひなたの学び」を意識して、児童が粘り強く思考したくなる指導計画を工夫するとともに、協働的な学び合いの面白さを体験させるなど、授業研究に努めてきた。</p> <p>○心のアンケートの確実な実施と教育相談を通して、いじめの兆候を見逃さない迅速な対応を心がけた。児童の人間関係の改善や、成長が著しい児童も多く見られるようになっていく。</p> <p>○定期的な「ほけんだより」の発行を通して、健康な体づくりに関する協力を各家庭にお願いしている。今後、児童の徒歩通学の励行等も、各家庭との連携を図りながら取り組んでいきたい。</p>  |
|        | 5 進んで行動できる優しい子         |       |       |              | 教職員：70.6%<br>保護者：93.7%<br>児童：91.4%                              | ・積極的な生徒指導、特別支援教育の視点を生かした指導の充実<br>・いじめ防止に向けた日常指導  |       |         |  |
|        | 6 進んできたえるたくましい子        |       |       |              | 教職員：88.2%<br>保護者：80.4%<br>児童：87.9%                              | ・活動の量を確保した教科体育、保健指導、食育の充実                        |       |         |  |
| めざす教師像 | 7 日々の教育活動の充実に全力を尽くす教職員 |       |       |              | 教職員：88.2%<br>保護者：91.9%<br>児童：95.2%                              | ・校内外の各種研修の積極的な受講                                 | A     | A       | <p>○主体的に校内研修を企画したり、各学年での主任を中心に、日々の授業づくりの話合いをしたりすることができている。</p> <p>○夏季休業のコンプライアンス研修や、コンプライアンスに関するチェックシート実施、職員会での声かけを通して、職員のコンプライアンス遵守の啓発を行っている。</p> <p>○「五十鈴小学校の職員」として、職員がそれぞれが「チーム五十鈴」の一員として、全体的に方向性を同じくして取り組んでいることが伺える。</p> <p>○人権感覚を磨いて、職員の言動が、児童に与える影響について考え、児童の立場に立った言動ができるように努めている。</p>   |
|        | 8 自らの言動を通して児童を導く教職員    |       |       |              | 教職員：94.1%<br>保護者：84.8%<br>児童：92.7%                              | ・あいさつや清掃の率先垂範<br>・コンプライアンスの遵守                    |       |         |  |
|        | 9 組織の一員と共通実践・指導をする教職員  |       |       |              | 教職員：88.2%<br>保護者：95.1%<br>児童：92.2%                              | ・各校務部の積極的な提案と実践の徹底<br>・PTAの一員としての積極的なPTA活動の参加    |       |         |  |

※県が推進する「ひなたの学び」・・・「ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって学び合い、たかめよう深く考える力」を合い言葉に、児童の学びに向かう力の育成を目指す取組。

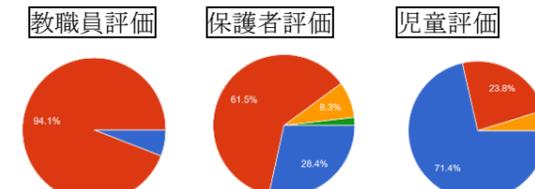
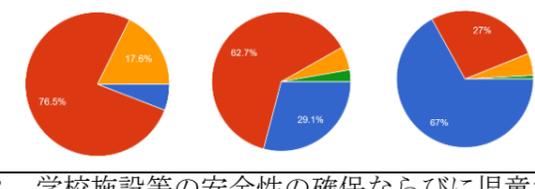
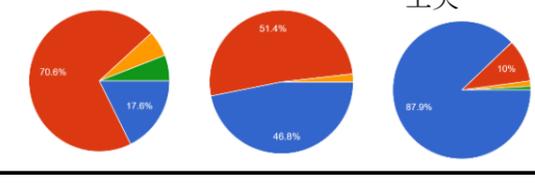
II 知育

|      |   |   |  |   |   |  |   |
|------|---|---|--|---|---|--|---|
| 学習指導 | 10 「分かる！できる！」まで教えよう！！に向けた授業改善・授業研究<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4 そうおもう</li> <li>● 3 だいたいそうおもう</li> <li>● 2 あまりおもしろくない</li> <li>● 1 おもしろくない</li> </ul> <p>教職員：94.2%</p> <p>保護者：85.6%</p> <p>児童：94.3%</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業研究</li> <li>・メンターチーム導入による授業研究</li> <li>・学習規律を高め合う児童相互の授業参観</li> </ul> | A | B | <p>○校内主題研究では、メンターチーム体制による授業研究を行うとともに、学校支援訪問・授業研究会の機会に授業改善等の学びを深めることができた。各種学力テスト分析により、児童の学力向上にも努めている。</p> <p>○本年度も児童相互の学習規律学び合い週間を設定し、集団での学びの土台づくりの大切さについて共有できた。</p> <p>○タブレットの効果的な活用については、保護者からなかなか見えにくいとの意見がある。参観授業での積極的な活用、懇談会や通信等での発信、家庭への持ち帰り学習の積極的な導入等を推進する必要がある。一方で、児童の健全な情報モラルの育成と、必要に応じたデジタルの生かし方について、学校の考えをしっかりと家庭に発信する必要がある。</p> <p>○朝の時間の全校一斉読書の工夫を推進するとともに、読書の達成感を持たせる手立てを講じるなど、児童の活字離れの解決に向けた努力が必要である。家庭読書に日には、宿題を出さずに読書の時間が確保できるように行ってきたところ、随分と定着してきた。</p> | <p>○タブレット授業と今までの学習法と良いところ取りできる方法を行えると良いと思う。持ち帰るとなると色々な課題も増えると思うが、学習に意欲的になってくれたら良いと思う。</p> <p>○昭和時代に小中学校の授業を受けた我々にとっては、テレビ、パソコン、スマホ等の機器による勉強は驚きの他はありません。子供の能力の多様性を発掘する重要なツールと思います。</p> <p>○タブレットの効果的な活用については保護者の理解が必要である。活字離れは私たち大人も同じであるため、学校図書や町立図書館の活用をする必要がある。</p> <p>○タブレットPC活用についてあまり多く見たことが無いので分からない点がある。</p> |
|      | 11 GIGA スクール構想に向けたタブレットPCの効果的な活用<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div>   | <p>教職員：88.3%</p> <p>保護者：72.9%</p> <p>児童：88.7%</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町教育研究所のタブレットPC活用に関する研究内容の積極的な実践</li> </ul>   | B |   |  |   |
|      | 12 読書活動の充実<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div>                         | <p>教職員：82.4%</p> <p>保護者：83.6%</p> <p>児童：92.1%</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭読書の日の推進</li> <li>・PTA読み聞かせ部及び職員による朝の読み聞かせ、選書会、季節に合った装飾等の推進</li> </ul>                    | B |   |  |   |

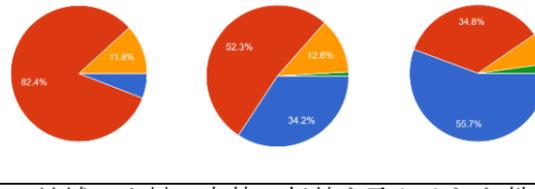
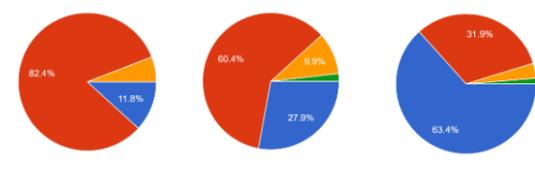
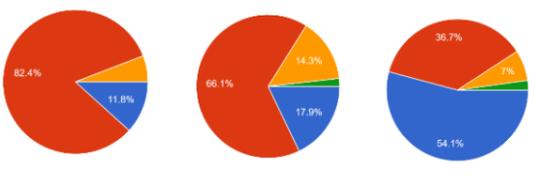
III 徳育

|      |   |   |  |   |   |  |  |
|------|---|---|--|---|---|--|--|
| 生徒指導 | 13 基本的な生活習慣の定着<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4 そうおもう</li> <li>● 3 だいたいそうおもう</li> <li>● 2 あまりおもしろくない</li> <li>● 1 おもしろくない</li> </ul> <p>教職員：47.1%</p> <p>保護者：94.6%</p> <p>児童：89.6%</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ・返事・無言清掃・メディアの約束の励行</li> <li>・記名指導の徹底</li> </ul>   | B | A | <p>○児童会で児童会目標「かきくけこ」を決めて、「考えて行動、きまりをまもる、くん・さんをつける、けじめをつける、ことばをやさしく」を全校で取り組んでいる。人権感覚を養い、いじめ防止にも繋がるので、継続して指導していきたい。</p> <p>○児童のあいさつについては、個人差が大きく、全体的によくできるとは言いがたい。学校において、児童主体のあいさつ励行の取組等、工夫が必要である。</p> <p>○定期的な記名指導により、校内の不明な落とし物は極めて少ない。記名指導は物を大切にすることを育てる機会として今後も大切にしたい。</p> <p>○豊かな心の育成は、学校の中だけではなく、学校を取り巻く地域の方々とふれあいや、地域の自然や文化等を知る活動を通して、より一層推進できることを今後も積極的に発信するとともに、ふるさと学習につながる地域素材の開拓に努めていきたい。</p> | <p>○「物を大切にすることを育てる」素敵だと思う。ふるさと学習もとても素晴らしい活動だと思う。それを通して見守りや挨拶につながっていくと思う。</p> <p>○児童の挨拶については民生児童委員の「あいさつ運動」に参加して個人差があると感じた。令和5年度より4年生が小松地区に有る県指定の天然記念物や文化財の見学、五十鈴川の水質調査に来るようになり、地域の人たちとふれあいが出来て良い。</p> <p>○孫がスポーツ少年団（ソフトボール）に所属しています。最近では耳慣れましたが始めは子ども同士と保護者の子どもの名前呼び捨てにとっても驚きました。学校ではきちんと「さん付け」で呼ぶように！と伝えていますが…。言葉遣いが気になります。他校の事なのですが制服などの無記名が多いですね。名前を書きたくないのでは？！と思ったりもします。</p> <p>○歩車分離式信号が運転者の意識が低く危険を伴うので注意喚起を。信号付近での待ち合わせは危ないので注意をしても良くならない。横断歩道を渡る時は速やかに早く渡る。石蹴りをしながら登校する児童がいるので、車に当たったら大変なので注意を。縁石の上を歩いて登校すると危ないので宜しくお願いします。</p> <p>○挨拶をする子、しない子の差が前よりも激しくなっている気がする。</p> <p>○豊かな心は人とのふれあいが大事だと思います。</p> |
|      | 14 積極的な生徒指導の推進<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div>       | <p>教職員：94.1%</p> <p>保護者：82.9%</p> <p>児童：91.8%</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、集会等の態度、スリッパ並べ、名札着用の徹底</li> <li>・学校行事や児童会活動等、特別活動の充実</li> <li>・規範意識や思いやりの心、困難に立ち向かう心の育成</li> </ul> | A |   |  |  |
|      | 15 地域とのふれあいを広げる活動の充実<br><div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> <p>教職員評価</p>  </div> <div> <p>保護者評価</p>  </div> <div> <p>児童評価</p>  </div> </div> | <p>教職員：88.2%</p> <p>保護者：95.5%</p> <p>児童：93.9%</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域素材の積極的活用</li> <li>・地域の行事等の参加促進</li> </ul>  | A |   |  |  |

IV 体育

|         |  |                                    |  |   |  |
|---------|--|------------------------------------|--|---|--|
| 健康・安全教育 | 1 6 体育科学習指導ならびに体育的行事における指導の工夫・充実<br>              | 教職員：100%<br>保護者：89.9%<br>児童：95.2%  | ・体力向上プランの具現化<br>・ニュースポーツや遊びを生かした日常的な手立ての工夫   | A | ○猛暑の夏は、熱中症対策として、気温の危険指数を設定し、外遊びの調整を行って昼休みを過ごさせた。ルールを守りながら、安全に遊ぶ児童の姿が見られた。<br>○1学期の体力テスト、2学期の運動会、持久走記録会への取組、3学期のなわとび週間など、学期ごとに児童の体力向上を図る活動を設定し、体育科の授業と関連させて昼休み時間等、児童の主体的な取組を推進することができた。<br>○6月に学校保健委員会ならびに、給食試食会を開き、食が成長に与える影響とともに、朝ごはんの意義について啓発を行うことができた。<br>○6月の虫歯予防週間に、養護教諭が各学級で発達段階に合わせた虫歯予防の指導を行った。また、2学期には虫歯未治療者への個別の支援を行い早期治療の推進を図った。治療率7割に向け、家庭への啓発に努める必要がある。<br>○一斉下校時避難訓練に向けた防災会議の実施等を通して、昨年度の課題を踏まえた改善を図ることができた。日常に近い形でより実践的な防災教育の推進を図りたい。 |
|         | 1 7 望ましい健康面における生活リズムの確立と食に関する指導の充実<br>            | 教職員：82.4%<br>保護者：91.8%<br>児童：94.0% | ・「早寝、早起き、朝ご飯」「歩いて登校」の徹底、虫歯治療率向上への取組促進<br>・すこやかタイムの徹底<br>・食育推進担当を中心とした食に関する指導及び給食指導 | B |  |
|         | 1 8 学校施設等の安全性の確保ならびに児童が主体的に危険を回避する力を育む防災教育の工夫<br> | 教職員：88.2%<br>保護者：98.2%<br>児童：97.9% | ・定期的な安全点検と迅速な対応<br>・児童の主体性を育む「一斉下校時避難訓練」の工夫  | A |  |

V 連携

|              |   |                                    |  |   |  |
|--------------|---|------------------------------------|--|---|--|
| 家庭・地域・社会との連携 | 1 9 保護者や地域への積極的な情報発信<br>                       | 教職員：88.2%<br>保護者：86.5%<br>児童：90.5% | ・学校だよりの定期的な発行ならびに学校ホームページでの日常の教育活動の発信<br>・作文や習字作品等の新聞投稿の推進                               | B | ○学校だよりの学校ホームページ、学年・学級だよりの情報発信を通して、教育活動の様子を多くの方々に知らせることができた。<br>○年間を通じてどの学年も地域の方との学習を積極的に実施し多くの学びを得た。白太 鼓踊りを継承する文化財愛護少年団を発足し、本年度は町の福祉祭りで披露することができ、伝統継承を体験する機会となった。<br>○門川高校生との交流を数多く実施できた。門川町一斉ラジオ体操や運動会、下校時避難訓練のボランティアとして協力していただき、福祉学習でも学び深めることができた。<br>○PTA運営委員・保体部委員が中心となり、PTA 地区別対抗親子駅伝大会を実施し、各地区の児童と親睦・交流を深めることができた。 |
|              | 2 0 地域の人材、自然、伝統を取り入れた教育ならびに関係諸機関、幼保小中高との連携<br> | 教職員：94.2%<br>保護者：88.3%<br>児童：95.3% | ・「ようこそ、よろしく先輩」の励行<br>・文化財愛護少年団活動等の積極的な取組<br>・各地区長、民生委員児童委員、学校運営協議会委員、見守りネットワーク、関係諸機関との連携 | A |  |
|              | 2 1 保護者や地域の相談・願いに応える学校<br>                     | 教職員：94.2%<br>保護者：84.0%<br>児童：90.8% | ・保護者や地域の声に対する迅速な対応と改善  | A |  |

【校長所見 ～ 次年度の方向性について】

確かな学力の定着を目指し、学習規律の徹底、基礎・基本の定着や考える力・伝える力の育成のための授業改善に、全職員が一丸となって取り組み、一定の成果が見られたと考える。今後、ご指摘いただいた効果的なタブレットの活用を含め、「主体的・対話的な深い学び」を目指し、教職員の研修の充実を図りながら、子ども達の更なる学力向上につなげていきたいと考える。生徒指導について、これまで五十鈴小で取り組んできた「五十鈴小の当たり前（あいさつ・集会の態度・スリッパ並べ）」など、低下の兆候にあると考える。全職員で基本に立ち戻り、五十鈴小のよき伝統を復活継承していくために、指導徹底を図っていききたいと考える。また、いじめのない学校づくりを目指し、未然防止への取組やいじめの兆候を見逃さない迅速な対応に心がけていきたい。家庭・地域との連携について、登下校の見守りや教育活動へのお力添えなど、地域の支えがあることで豊かな教育活動が実現できていると考える。地域・学校協働活動である「防災教育」や「ふるさと教育」の充実を含め、今後も、学校・家庭・地域とが一体となった教育活動に取り組んでいきたいと考える。

